

(10) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-111963

(P2001-111963A)

(43)公開日 平成13年4月20日(2001.4.20)

9

(51) Int.Cl.

H 04 N 5/93
5/225
5/85
5/92

識別記号

F I

H 04 N 5/225
5/85
5/93
5/92F 5 C 0 2 2
Z 5 C 0 5 2
Z 5 C 0 5 3
H

テレコム(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 7 O.L (全 8 頁)

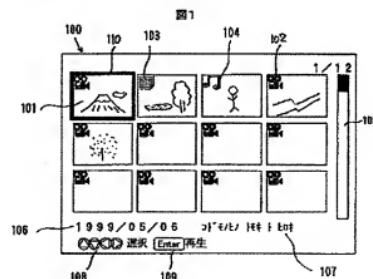
(21) 出願番号 特願平11-282419
(22) 出願日 平成11年10月4日(1999.10.4)(71) 出願人 000005108
株式会社日立製作所
東京都千代田区神田巣河町四丁目6番地
(72) 発明者 ▲高▼橋 将
神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株
式会社日立製作所デジタルメディア開発本
部内
(72) 発明者 清水 宏
神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地 株
式会社日立製作所デジタルメディア開発本
部内
(74) 代理人 100075096
弁理士 作田 康夫

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 光ディスクを利用したビデオカメラにおける録画再生方法

(57) 【要約】

【課題】光ディスクを用いたビデオカメラ装置において、目的とする画像の検索を高速に行う。
 【解決手段】ビデオカメラで撮影をする際に、録画開始時の先頭画像かまたは任意の画像からサムネイルを作成し、光ディスクのサムネイル用の専用記録エリアに格納する。動画像はMPEG方式で記録し、サムネイル用の静止画像はJPEG形式で格納する。再生時には、サムネイル用の専用記録エリアから複数のサムネイルを読み出して一覧表示をし、操作者によって選択されたサムネイルに相当する画像から再生を開始する。この際、サムネイルには画像の性質を示すアイコンを付加することにより、操作者の操作性を向上する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】画像情報と共にサムネイルが記録された光ディスクから情報の再生をするビデオ装置において、前記光ディスクの管理情報エリアを検索して、サムネイルの記録領域を認識し、

該記録領域から複数のサムネイルを読み取って表示手段に表示し、

操作者によって選択されたサムネイルを認識し、認識されたサムネイルに付加された動画像のアドレス情報を読み出し、

該アドレス情報の示す位置からデータを読み出す事により動画像の再生を行うことを特徴とする画像再生方法。

【請求項2】前記光ディスクは、管理情報記録エリアとデータ記録エリアを有し、該データ記録エリアの領域の一部がサムネイル記録エリアとして割り当てられたものであって、

前記ビデオ装置はサムネール表示指示を受けた際に、前記サムネイル記録エリアからサムネイルに付加されたタイムスタンプの順に、サムネイル画像を読み取ることを特徴とする請求項1の画像再生方法。

【請求項3】前記サムネイルは、MPEG録画開始時の先頭画像の縮小画像であって、前記動画像の再生は、選択されたサムネイルに相当する画像から再生を行うことを特徴とする請求項2の画像再生方法。

【請求項4】前記動画像の再生は、選択されたサムネイルに相当する画像から所定フレーム画像をスキップしながら再生することを特徴とする請求項3の画像再生方法。

【請求項5】光ディスクを用いたビデオカメラにおいて、

操作者による録画開始指示を検出すると、カメラ部から入力された画像の録画を開始すると共に、先頭のフレーム画像をバッファに貯え、

操作者による録画終了指示を検出すると、

バッファに貯えられたフレーム画像からサムネイルを作成し、作成されたサムネイルを光ディスク上の前記録画された画像とは別の記録エリアに記録することを特徴とするビデオカメラにおけるサムネイル記録方法。

【請求項6】光ディスクを用いたビデオカメラにおいて、

操作者による録画開始指示を検出すると、

カメラ部から入力された画像をMPEG圧縮をして録画処理を開始すると共に、入力された映像された任意のフレーム画像をバッファに貯え、

前記録画処理の空き時間を検出し、

空き時間が検出されると前記バッファに貯えられた前記フレーム画像からJPEG圧縮によるサムネイルを作成し、作成されたサムネイルを光ディスク上の、前記MPEG圧縮して作成される動画像と別の記録エリアに記録をすることを特徴とするビデオカメラにおけるサムネイル記録方法。

とを特徴とするビデオカメラにおけるサムネイル記録方法。

【請求項7】請求項6において、前記任意のフレーム画像は、画像の記録開始後一定時間経過時のフレーム画像であることを特徴とするサムネイル記録方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、映像記録再生装置、特に光ディスクを応用したビデオカメラに係わる。

【0002】

【従来の技術】例えば、現在商品化されているいわゆる8mmビデオカメラ装置では、録画した画像のランダムアクセスができないため頭出しに時間がかかっていたが、光ディスクを用いたビデオカメラではランダムアクセスができるようになった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本願発明の目的は、光ディスクを用いた画像再生装置において、高速に所望の画像を検索することのできる画像再生装置を提供することにある。

【0004】本願発明の他の目的は、光ディスクを用いた画像記録装置において、入力された画像のサムネイルを、録画時に自動的に作成して記録する画像記録装置を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本願発明を達成するため以下のように構成する。

【0006】使用する光ディスクは管理情報記録エリアとデータ記録エリアを有するが、このデータ記録エリアの領域の一部をサムネイル記録エリアとして割り当てる。これは複数のサムネイルを光ディスク上のまとまった領域に記録する事によって、サムネイル画像の一覧表示をする際に読み出し速度の向上と、検索効率を向上するためである。

【0007】次に、ビデオカメラによる撮影時に自動的にサムネイルを作成し、光ディスクに記録する。すなわち、操作者による録画開始指示が入力されると、ビデオカメラは、カメラ部から入力された映像画像の録画処理を開始する。光ディスクへの記録の場合は、CCD装置で読み取られたディジタル量子化データを、いったんバッファに溜めて、これをMPEG形式などのコード変換を行いう。

【0008】この際、バッファの中から、任意のフレーム画像をバッファ内の同じ領域、あるいは別のバッファ領域に貯えておく。このフレーム画像は、たとえば秒間30フレームで形成される動画像の1フレーム分の画像である。前記録画処理の空き時間、すなわち、録画終了時や、録画処理中のCPU空き時間において、バッファ内のフレーム画像からサムネイルを作成する。サムネイルは、静止画の画像形式、たとえばJPEG方式や同様の画像

形式で作成するといい。作成されたサムネイルはサムネイル記録エリアに記録される。この際、サムネイルにタイムスタンプを付与するが、このタイムスタンプは、サムネイル自体の作成時間ではなくて、サムネイルのもとのフレーム画像の録画の日時を使用することが重要である。

【0009】次に、録画された画像をサムネイルを使って選択し、再生する方法を説明する。まず、ビデオカメラにおいて、サムネイルの一覧表示が指示されると、光ディスクの管理情報エリアを検索して、サムネイルの記録領域を認識し、該記録領域から複数のサムネイルをタイムスタンプの順に読み取って表示手段に一覧表示をする。タイムスタンプ順というのは、タイムスタンプを使って時系列に全サムネイルでも良いし、特定の関連性を持たせてあるサムネイルをスキップした一部分表示でもよい。たとえば、前のサムネイルのタイムスタンプから一定時間以内（たとえば1分以内）に作成されたサムネイルをスキップするようにすれば、短い間隔で録再を繰り返してサムネイルがたくさんある場合でも、適切な量のサムネイルだけを表示する事ができる。さらに、表示装置に表示する際には、サムネイルに画像の性質を示すアイコンを重畳して表示するといい。

【0010】次に、操作者によって再生を開始すべき画像のサムネイルが選択されると、ビデオカメラはそれを認識し、認識されたサムネイルに付かれた動画像の記録場所を認識し、認識された記録場所から動画像の再生を行う。ここで、サムネイルに対応する動画像の格納領域の情報を付加しておけば、光ディスクの管理情報記録エリアを参照しなくとも、目的の動画像にアクセスできるので高速処理が可能になる。

【0011】

【発明の実施の形態】図2は、本実施例に関するビデオカメラ装置の回路ブロック図である。光ディスク201は、たとえばDVD-R、DVD-RAM等の記録媒体であり、直径が8cmのディスク、あるいは、直径が12cm、60等の任意の径のディスクを用いることができる。光学レンズから得られた被写体画像はCCDセンサ207により電気信号でカメラ信号処理DSP208に入力され、Y、U、V信号に変換されるとともに、画像のエンハンスが行われる。またDSP208はCCDセンサ207に必要な駆動バルスやビデオ出力に必要な同期信号を生成し、各部に供給する。操作キー203は、ビデオカメラ装置の操作をするための入力手段である。カメラ制御マイコン210は、光学系の状態やCCDセンサから得られた映像情報と、カメラ全体の操作から得られた情報によりカメラ信号処理DSP208を最適に制御する。LCD表示パネル215は入力映像や再生画像を写すものである。ピックアップ部202は光ディスク201へ信号を書き込み、読み出すもので、半導体レーザやレンズを含む。カメラ信号処理DSP 208から得られたディジタルの映像信号は、例えばこの例では16bitのパラレルデータ

としてMPEG-2コーディック217に送られる。MPEG-2コーディック部217は、SDRAMなどのメモリ部212を映像メモリとしてカメラ信号処理DSP208の映像を展開して動画データを約1/60程度に圧縮する。圧縮された映像データはシステムコントロールマイコン213の命令に従ってシステム内部バス205に送出する。一方、音声信号は図示されていないが、カメラに内蔵されたマイクより得た信号をA/D変換し、システムコントロールマイコン213の内でソフト処理にて圧縮され、MPEG-2コーディック部217が10 出力した映像データとマルチプレクスして、MPEGデータストリームを生成する。このMPEGデータストリームはDVなどの光ディスクが受ける振動や衝撃による書き込みエラーを回避するためのバッファRAM206を介して信号処理回路204に送られる。信号処理回路204はDVD光ディスク用のトラッキング、フォーカスおよびディスクのスピンドルサーボ回路とデータ書き込み読み出し時のエラー訂正用回路を集積化した回路であり、MPEGデータストリームはDVD規格に従ったデータ形式に処理され、訂正符号が付加され、R/W(Read/Write)回路216によりディジタル変調が行われてピックアップ部202により、光ディスク201に記録される。

【0012】映像データを再生の場合は、光ディスク201からピックアップ部202にてビット情報がディジタル変調された状態で読み取られ、R/W回路216により、波形等化やサーボ信号が検出され、信号処理回路204によりMPEG-2映像ストリームとしてシステム内部バス205に送出される。このとき、バッファRAM206も利用される。システム内部バス205の映像および音声データはシステムコントロールマイコン213の命令により、バス上のデータ転送30 が制御され、MPEG-2コーディック部217によって元の映像データが伸張動作により復元され、記録同様に16bit パラレル信号でカメラDSP208によりNTSC信号に変換された後、LCD制御部209を通り、LCD表示パネル215に再生画像として表示される。同様にカメラ信号処理DSP208からNTSCビデオ信号が送出されるので、カメラに備えたビデオ出力端子から外部のTVにも表示可能となっている。また、映像および音声データはUSBコントローラ218を介して外部のパソコンに送信することも可能である。ここではMPEG-2形式に従った動画を記録再生することを説明したが、本カメラはMPEG形式のIピクチャを使った静止画像、あるいは、JPEG画像も撮影と記録が可能である。JPEG形式のエンコード動作はMPEG形式のIピクチャエンコード動作とほぼ同様な動作であり、MPEG-2コーディックはその回路の一部の動作を切り替えるだけでJPEG形式のエンコード動作も可能となる。MPEG-2コーディックから出力された静止画像はひとつのファイルとして、光ディスク201に記録される。また音声データだけを記録することも可能であり、前期静止画とファイルを関連させることで、静止画つきの音声データとして取り扱うことが可能になる。

【0013】図3は本発明を応用したビデオカメラの外形と操作キーの配置の例の概略を示したものである。光学レンズ29は、公知の携帯型8mmビデオカメラと同様の構成である。撮影用のファインダ30は、小型の液晶表示部である。方向指示手段キー31は、画像のメニューから各種選択操作をするための指示キーであり、それぞれのボタンが4つの方向（上、下、右、左）を示している。Enterキー36は、選択したメニュー等の確定をするためのキーである。ジョグダイヤル32はカメラのマニュアル操作をするための入力手段である。電源スイッチ33は、ビデオカメラの主電源のスイッチである。ここで、公知の携帯型8mmビデオカメラでは、電源スイッチは、再生モードとしての電源ONと、録画モードでの電源ONの2種類ONモードがあるのが一般的だが、本実施例ではこのようにモードを分ける必要が無い。磁気テープを用いたビデオカメラでは、たまに位置しているテープの位置から録画を開始してしまうと誤ってデータを消してしまう恐れがあるため、再生モードと記録モードを分けている。しかし、光ディスクでは、任意の記録エリアから記録ができるため、誤って記録済みのところに上書きしてしまうといったような誤動作の心配が無いから、電源ONのモードを分けることはかえって操作性を悪化させることになる。RECキー33は録画の開始、終了をする指示するためのボタンである。ここで録画のスタンバイモード（録画ボーズ）は不要である。回転ヘッドを用いた磁気テープのような、テープを回転ヘッドに巻きつけるようなスタンバイ動作をしなくても、任意の時点から画像をすぐに記録する事が可能だからである（これは、バッファRAM206を用いたバッファリングの効果である）。バッテリ34は、着脱可能な充電型電池である。開閉形の液晶表示部37は公知の携帯型8mmビデオカメラの液晶表示部のような構成であり、たとえば2~4インチのLCDパネル38が設けられており、録画中の画像や、後述するサムネイル画像、再生画像、その他のメニュー画面等を表示することができる。

【0014】次に、図1を用いて本実施例において、サムネイル画像から所望の画像を選択する操作を説明する。

【0015】図1は、複数のシーンの画像を撮影した後に、所望の画像を選択するのに用いられるもので、ファインダ30又はLCDパネル38に表示される。画面100には複数のサムネイル画像101が表示される。ここでは、1画面に12のサムネイルが表示されている。各サムネイルは、たとえば各記録シーンの所定位置の画像（例えば先頭画像）を縮小して作られた画像で、後述する光ディスク201のサムネイル記録エリアに静止画像の形式（たとえばJPEG形式）で記録される。各サムネイルの左上には、サムネイルに対応する画像の特徴を示すアイコン12, 103, 104が表示される。映画カメラのアイコン102は、サムネイルに対応する画像が動画であることを示し、

アイコン103は静止画であることを示し、音符のアイコン104は、音声が付加された静止画であることを示す。これらサムネイル上に重畳して表示される内容識別アイコンによって、記録されているデータの特徴が一目瞭然となる。

【0016】スクロールバー105は、複数ページに渡るサムネイル画像のうちどのあたりを表示しているかを示すものである。日時106、コメント107は、選択されているサムネイル画像（選択枠110により示される）が記録

10された時間と、その画像に付けられた文字のコメントである。これらは、選択枠110が動く毎に表示が変化する。108は選択枠110を動かすための操作キー（ここでは方向指示手段キー31）を示すもので、109は選択したサムネイルに対応する画像の再生開始のためのキー（ここではEnterキー36）を示す。

【0017】次に、図6を用いて、サムネイル画像の記録手順について説明する。

【0018】まず、操作者はカメラ電源スイッチ33をONにし、RECボタン35を押すことによって、すぐに録画動作が開始される（ステップ61）。録画動作が開始されると、光ディスク201上のデータ記録領域から未記録エリアがサーチされ、記録開始位置がセットされる。

【0019】次に、光学レンズ29から映像を取り込み、これをMPEG-2コーディック部217で符号化して、光ディスク201に記録する（ステップ62~64）。光ディスクでは、磁気テープと異なり、入力映像の符号化と、記録を同期を取って処理する必要性は薄く、符号化した画像をバッファにためて、断続的に光ディスクに記録するようすれば、消費電力を節約できる。尚、ステップ62において、録画開始時の先頭画像1フレーム分をタイムスタンプと共にバッファに一時保存し、後述するサムネイル画像の作成用に用いる。

【0020】次に、操作者による再度のRECボタン35の押下（これは録画終了を意味する）があったかどうかを検出し、あった場合はステップ66に進み、無かった場合はステップ62に戻る（ステップ65）。力が終了したら、バッファにためてある先頭のフレーム画像を用いて、所定サイズのサムネイル画像（例えば160×120ドット）を作成し、サムネイルの専用記録エリアに記録する。本実施例では、サムネイル作成を撮影の後に行い、撮影中に作成しない例を示しているが、これはエンコードおよびメモリとDisc管理で、システムコントローラアイコン213とDiscドライブの各部分（204, 206, 202）がBUSであるためであり、これらの処理系に十分余裕があれば、サムネイル作成やサムネイル書き込み（ステップ66, 670の処理）を、撮影中（ステップ62~64の処理中）と同時に実行してもよい。また、サムネイルは操作者が動画像を再生中にサムネイル作成ボタンを押す事によって、任意の時点のサムネイルを作るようにして良い。本実施例ではサムネイル記録部が別に設けられているので、

動画像を記録した後の任意の時点でサムネイルの追加や消去ができる。

【0021】ここで、図4を用いて、光ディスク201の記録エリアを説明する。図4において管理情報エリア41は、データ記録エリア42に記録される情報の内容やアドレス等を記録するエリアで、一般にTOC (Table of Contents) やFAT領域と呼ばれる。データ記録エリア42は撮影された映像(動画像、静止画、音声)を記録するエリアである。これらのエリア41、42は、一般に規格によって定められている事が多い。図4は、データ記録エリア42中に記録されるデータの例を示すもので、サムネイル記録部50は本実施例にて作成されるサムネイル画像の専用記録エリアである。このエリアはデータ記録エリア42中の任意のエリアに設定することができるが、サムネイル画像を高速に読み出すためには撮影映像記録部55とは別の専用領域に設定するのが好ましい。サムネイル記録部50Kは複数のサムネイル情報51、52が含まれる。撮影映像記録部55Kには撮影された動画像、静止画、音声を時系列に記録される。

【0022】サムネイル情報51Kに含まれる情報の詳細を示したのが図5(b)である。映像ID55は、どの画像のサムネイルであるかを示すもので、サムネイルの識別番号(または動画像の識別番号)、対応する画像の格納アドレス(サムネイル51の場合、映像データ53の先頭番地)が含まれる。タイトル56はそのサムネイル情報の内容を示す文字情報であり、通常はサムネイル作成後の任意の時点で操作者によって付加される。サムネイルデータ57は、JPEG形式で圧縮された静止画像である。関連情報58は、たとえば撮影日時や、サムネイルの作成日時、その他的情報を格納したものである。

【0023】図8は、画像の記録動作と、サムネイル画像の記録動作を更に説明する。

【0024】光学レンズ29より入力された入力画像81は、いったん半導体メモリであるバッファ82に貯えられる。貯えられた画像はJPEG圧縮83されるが、同時に特定画像、例えば録画開始の先頭画面は、バッファ86にコピーされる。入力画像81が続いて入力される間は、引き続きJPEG圧縮83され、エンコードされた画像が第2のバッファ84Kに貯えられ、光ディスク201に記録される。一方、入力画像81の記録処理が終了した場合は、バッファ86の画像を縮小してJPEG圧縮87をし、サムネイル画像が作成され、バッファ84からのデータと別の記録エリア、又は、映像データそのものに付加して記録される。このように、JPEG圧縮処理と、JPEG圧縮処理は独立の処理として行われる。尚、バッファ82の画像をバッファ86Kにコピーしたが、バッファ84Kに貯えられたJPEG画像のIピクチャをコピーしてサムネイルの作成に利用することも可能である。この場合であってもJPEG処理とサムネイルの作成処理を別々におこなうことができる。図8のバッファ82、86は図2のメモリ部212を利用でき、バッファ84は

バッファRAM206を利用できる。

【0025】次に図7のフローチャートを用いてサムネイルを用いた画像の検索・表示手順を説明する。まず、操作者の指示によりサムネイル画像の一覧表示が指示されると、光ディスクの管理情報を読み出して(ステップ7)、サムネイル画像の記録エリアが認識され、所望の数(例えは12)のサムネイルが付加されたタイムスタンプ順に読み出される(ステップ7)。読み出されたサムネイルは、図1に説明したように一覧表示される(ステップ7)。尚、本発明によるサムネイル画像があらかじめ記録されていない場合は、ディスク内の画像が連続したデータストリームの先頭画像を読み出し、これよりサムネイルを生成して表示してもよい。但し、この方式ははるかに時間がかかるため不効率である。

【0026】次に、方向指示手段キー31とENTERキー36を使って操作者により所望のサムネイルが選択され、さらにジョグダイヤルにより選択された再生モードが判定される(ステップ7)。

【0027】通常再生の場合は、サムネイルの映像ID51から、サムネイルに対応する画像の格納位置が認識され、その格納位置からのデータの再生を開始し(ステップ7)、終了するまで繰り返される(ステップ7)。

【0028】特殊再生の場合は、サムネイルの映像ID51から、サムネイルに対応する画像の格納位置が認識され、その格納位置からのデータの特殊再生を行う。特殊再生とは、スロー再生、早送り再生などである。特に、本実施例早送り再生は、再生画像のスキップをすることにより実現する。これは、例えは、MPEG2で記録された画像のうちIピクチャだけを取り出して再生したり、又は、秒間30コマで撮影された各フレーム画像のうち、1、6、11、16…コマ目を抜き出さないように規則的に抜き出して、これだけを再生することによって、早送り再生と同等の効果を得るものである。この例の場合、2～5、7～10、12～15…コマ目の画像がまったく再生されず、各コマの部分画像を組み合わせての早送りをおこなう通常の磁気テープを用いたビデオカメラの早送り方法とは方式が異なる。このようにして特殊再生は終了するまで繰り返される(ステップ7)。

【0029】なお、ステップ7において、再生モードの選択ではなく、次ページのサムネイル画像の表示が選択されたらスティップ7に戻る(ステップ7)。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例にかかる、サムネイル画像から所望の画像を選択する操作を説明する図。

【図2】本実施例に係るビデオカメラ装置の回路ブロック図。

【図3】本実施例に係るビデオカメラの外形と操作キーの配置の例の概略を示した図。

【図4】光ディスク装置の記録領域を説明する図。

【図5】光ディスク装置の管理情報エリアと、データ記

録エリアに記録される情報を説明するための図。

【図6】サムネイル画像の記録手順を示すフローチャート。

【図7】サムネイルを用いて高速に画像を検索・表示する手順を示すフローチャート。

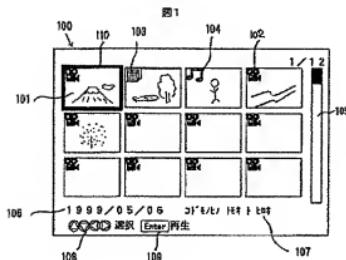
【図8】画像の記録動作と、サムネイル画像の記録動作*

*を説明する概念図。

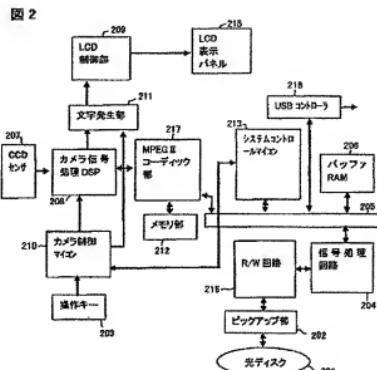
【符号の説明】

100…画面、 101点サムネイル画像、 102,103,104…アイコン、 105…スクロールバー、 106…日時、 107…コメント、 110…選択枠、 201…光ディスク。

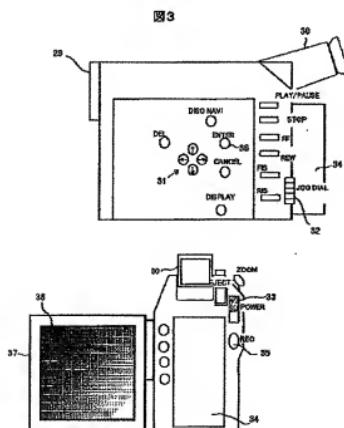
【図1】



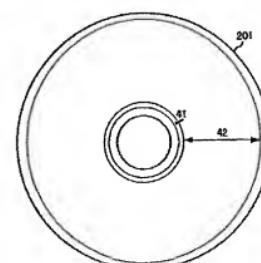
【図2】



【図3】



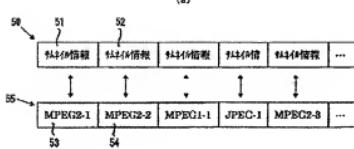
【図4】



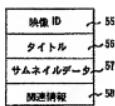
【図5】

図5

(a)

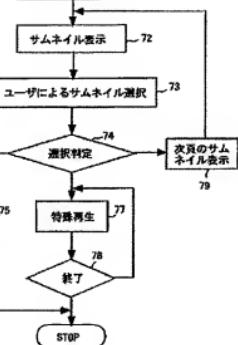
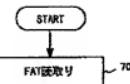


(b)



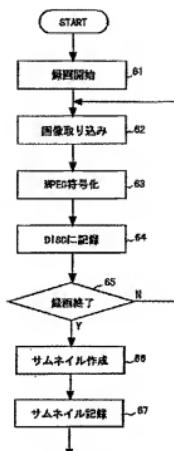
【図7】

図7



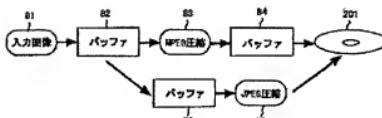
【図6】

図6



【図8】

図8



フロントページの続き

(72)発明者 矢次 富美繁
茨城県ひたちなか市稲田1410番地 株式会
社日立製作所デジタルメディア製品事業部
内

Fターム(参考) SC022 AA11 AB68 AC00 AC03 AC13
SC052 AA02 AC08 BB04 BC05 CC11
DD02 DD04
SC053 FA10 FA24 FA25 GA11 GA14
GA18 GB04 GB11 GB36 GB37
GB38 HA30 KA24 LA01 LA06

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成16年10月7日(2004.10.7)

【公開番号】特開2001-111963(P2001-111963A)

【公開日】平成13年4月20日(2001.4.20)

【出願番号】特願平11-282419

【国際特許分類第7版】

H 04 N 5/93

H 04 N 5/225

H 04 N 5/85

H 04 N 5/92

【F I】

H 04 N 5/93 Z

H 04 N 5/225 F

H 04 N 5/85 Z

H 04 N 5/92 H

【手続補正書】

【提出日】平成15年9月19日(2003.9.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】画像再生装置及び画像記録装置

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

記録媒体に記録された画像を再生する画像再生装置において、

記録媒体に記録された画像と該画像から生成されたサムネイルとを読み出す手段と、
前記読み出されたサムネイルに、前記画像の特徴を示すアイコンを重畳して表示する表示
手段と、
を有することを特徴とする画像再生装置。

【請求項2】

記録媒体に記録された画像を再生する画像再生装置において、

記録媒体に記録された画像を読み出す手段と、

前記読み出された画像からサムネイルを生成するサムネイル生成手段と、
前記サムネイルに、前記画像の特徴を示すアイコンを重畳して表示する表示手段と、
を有することを特徴とする画像再生装置。

【請求項3】

請求項1又は2記載の画像再生装置において、

前記表示手段に表示されたサムネイルのうちから選択されたサムネイルに対応する画像を
再生する再生手段を有することを特徴とする画像再生装置。

【請求項4】

請求項1又は2記載の画像再生装置において、前記記録媒体に記録された画像は、動画、

静止画又は音声が付加された静止画であることを特徴とする画像再生装置。

【請求項 5】

請求項 1 又は 2 記載の画像再生装置において、前記画像が動画である場合には、前記サムネイルは、動画記録開始時の先頭画像から生成されることを特徴とする画像再生装置。

【請求項 6】

請求項 1 又は 2 記載の画像再生装置において、前記画像が動画である場合には、前記サムネイルは、前記動画の任意の時点の画像から生成されることを特徴とする画像再生装置。

【請求項 7】

請求項 1 記載の画像再生装置において、

前記記録媒体は、管理情報記録エリアとデータ記録エリアとを有し、

前記サムネイルは、前記データ記録エリアの一部であるサムネイル記録エリアに記録されていることを特徴とする画像再生装置。

【請求項 8】

記録媒体に画像を記録する画像記録装置において、

画像を撮影する手段と、

前記撮影された画像からサムネイルを生成するサムネイル生成手段と、

前記画像とサムネイルとを記録媒体に記録する記録手段と、を有し

前記記録媒体は、管理情報記録エリアとデータ記録エリアとを備え、

前記記録手段は、前記データ記録エリアの一部であるサムネイル記録エリアに前記サムネイルを記録することを特徴とする画像記録装置。

【請求項 9】

請求項 8 記載の画像記録装置において、

前記記録手段は、前記サムネイルを前記データ記録エリアの一部である前記サムネイル記録エリアに記録し、前記画像を該サムネイル記録エリア以外の前記データ記録エリアに記録することを特徴とする画像記録装置。

【請求項 10】

請求項 8 記載の画像記録装置において、

前記記録手段は、前記画像を前記記録媒体に記録した後に、前記サムネイルを前記記録媒体に記録することを特徴とする画像記録装置。

【請求項 11】

請求項 8 記載の画像記録装置において、

前記記録手段は、前記画像の録画処理を開始した後、該画像の録画処理を終了するまでの間に、前記サムネイルを前記記録媒体に記録することを特徴とする画像記録装置。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

この発明は、画像再生装置及び画像記録再生装置に係わる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

【発明が解決しようとする課題】

本願発明の目的は、高速に所望の画像を検索することのできる画像再生装置を提供することにある。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

また、高速に所望の画像を検索することができる画像記録再生装置を提供することにある。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本願発明は、記録媒体に記録された画像を再生する画像再生装置において、記録媒体に記録された画像と、該画像から生成されたサムネイルとを読み出す手段と、前記読み出されたサムネイルに、前記画像の特徴を示すアイコンを重畳して表示する表示手段と、を有することを特徴とする。

また、記録媒体に記録された画像を再生する画像再生装置において、記録媒体に記録された画像を読み出す手段と、前記読み出された画像からサムネイルを生成するサムネイル生成手段と、前記サムネイルに、前記画像の特徴を示すアイコンを重畳して表示する表示手段と、を有することを特徴とする。

また、記録媒体に画像を記録する画像記録装置において、画像を撮影する手段と、前記撮影された画像からサムネイルを生成するサムネイル生成手段と、前記画像とサムネイルとを記録媒体に記録する記録手段と、を有し、前記記録媒体は、管理情報記録エリアとデータ記録エリアとを備え、前記記録手段は、前記データ記録エリアの一部であるサムネイル記録エリアに前記サムネイルを記録することを特徴とする。